

Ⅲ部 基調報告 新羅郡域の遺跡

「和光市の遺跡」

講師： 鈴木 一郎

(和光市教育委員会)

和光市の遺跡

鈴木一郎（和光市教育委員会）

1 和光市域の地理的状況

和光市、朝霞市を含む周辺地域は古代では、新羅郡（註1）と称され、範囲としては、現和光市、朝霞市、志木市、新座市、練馬区周辺の旧橋戸村、旧小樽村の範囲と推定されている。和光市域では、新羅から転訛した新座（爾比久良）（註2）—「新倉」、シラギーシラクー「白子」などの地名が現在も残ることから、和光市での遺跡の状況を考え、今回のシンポジウムの足掛りとなればと思ひ資料とした。

現在の和光市域は、県境の白子川を境に東側が東京都板橋区、南側も一部（白子1丁目）を除き白子川右岸が東京都練馬区となっている。近代までは、練馬区まで上白子村であり、江戸時代の白子一帯は、伊賀者の給地として年貢米の米蔵が練馬区大泉町にあったと言われており、大泉氷川神社には現在も伊賀者によって奉納された手水石と鳥居が残っています。

市域は、地理的には荒川低地と武蔵野台地に分かれ、遺跡の多くは荒川低地に面した台地上と台地を開析する小河川の谷の上に分布しています。市内には43箇所の遺跡があり、そのうち13遺跡で奈良・平安時代の遺構と遺物が検出されています。中でも榎堂遺跡（No.11-023）は、荒川低地の自然堤防上の遺跡で、古墳時代前期の方形周溝墓のほか、平安時代の掘立柱建物跡、溝などが検出されています。その他台地上では、荒川に面した台地縁辺部に吹上遺跡（No.11-013）、午王山遺跡（No.11-005）、花ノ木遺跡（No.11-002）などが分布し、白子川左岸の崖上には、市場峡・市場上遺跡（No.11-017）、城山遺跡（No.11-022）が存在しています。奈良・平安時代の遺跡分布としては、白子川左岸に於いては城山遺跡より上流部では、遺構を伴う遺跡は確認されていません。同じく市内の小支谷の奥まった遺跡でも遺構は確認されず、和光市内では、市域の南半分では、奈良・平安時代の遺跡が展開していないことが見えてきています。

2 和光市の新羅郡の時代

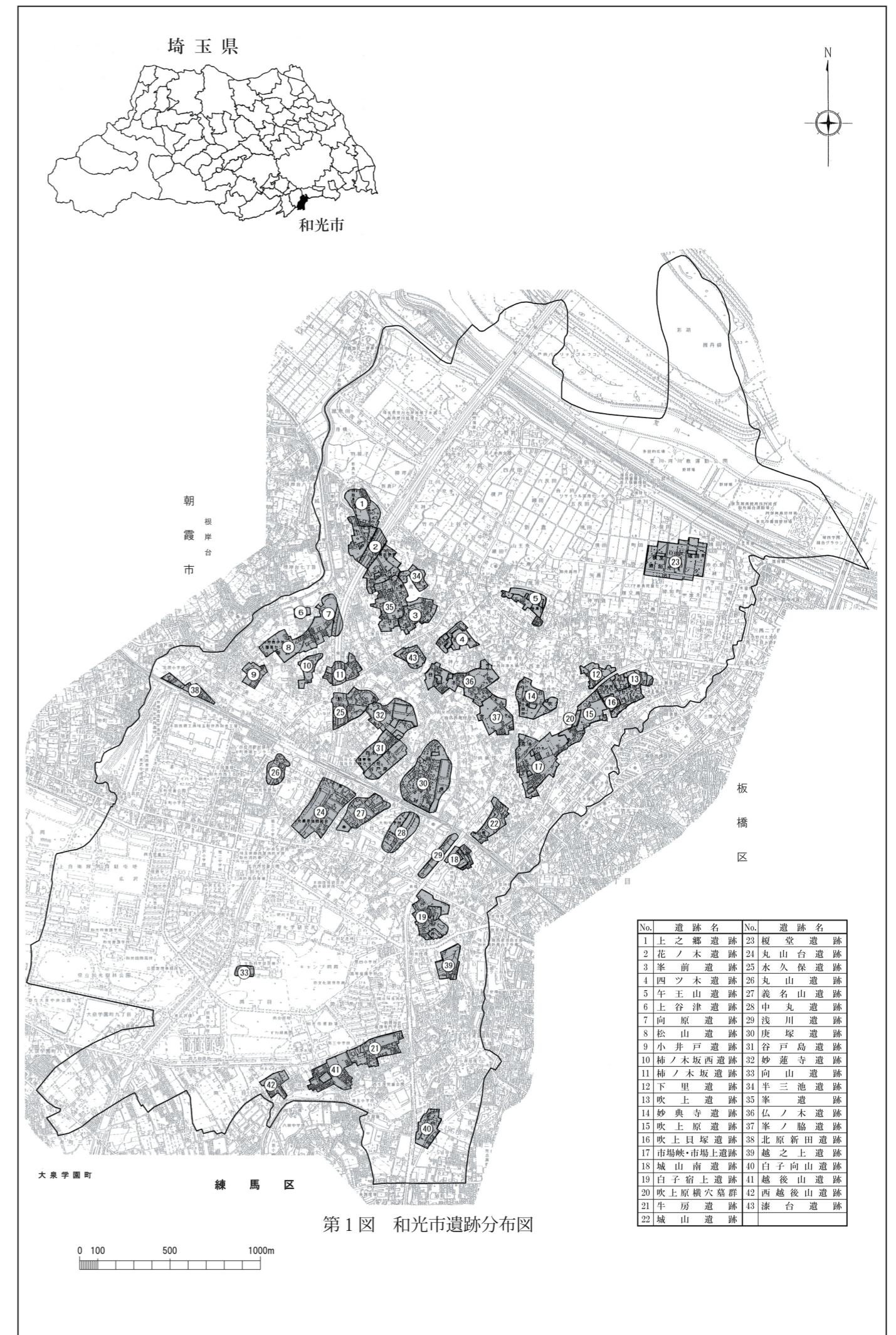
今回のシンポジウムⅢ部基調報告「和光市の遺跡」の資料は、和光市内の奈良・平安時代全ての住居跡の集成ではなく、奈良・平安時代の主な資料であり、大きな時期区分としてとらえられる様に展開しています。

新羅郡建郡以前として、7世紀末から8世紀初頭の遺跡では、仏ノ木遺跡（No.11-036）で墓とみられる円形周溝の溝より、湖西産の須恵器壺と土師器坏が出土しています。下里遺跡（No.11-0012）でも、同期の住居跡が1件検出され、湖西産の須恵器坏が出土しています。

8世紀代の遺跡では、吹上遺跡第3次調査の第13号、第29号、第53号、第36号住居跡（第6～10図）などが建郡直前から建郡（758年）後にかけての時期とみられ、午王山遺跡H10号住居跡（第12図）も建郡後の時期とみられ、花ノ木遺跡事業団調査区の第6号住居跡（第15図）も建郡後少し時期が下がったところとみられます。

9世紀前半では、吹上遺跡第3次第15号住居跡、花ノ木遺跡第13次第38号住居跡、花ノ木遺跡事業団調査区の第9号住居跡（第18図）、漆台遺跡第1号住居跡（第25図）などが検出され、漆台遺跡では、須恵器円面硯が出土しています。

9世紀半ばから後半では、花ノ木遺跡事業団調査区第7号住居跡（第20～22・31図）、峯遺



奈良・平安時代の遺跡分布図



和光市

No.	遺跡名 (県遺跡番号)	所在地	検出遺構	出土遺物
2	花ノ木遺跡 (11-002)	新倉2丁目	[平安]住居跡14(8世紀末3・9世紀後半4・10世紀前半7)	須恵器(坏、高台付坏、蓋、壺、皿、高台付皿、壺、長頸瓶、短頸瓶、甕、内黒高台付壺、内黒耳皿)・土師器(甕、台付甕)・灰釉陶器(長頸瓶)・土製品(土錘、土製支脚、紡錘車)・銅製品(銅製火熨斗)・鉄製品(鍬、刀子、鎌、釘、クルリ鍵、紡錘車)・石製品(砥石、量り)
3	峯前遺跡 (11-003)	新倉2丁目	[平安]住居跡4(9世紀第3～4四半期2・10世紀2)、井戸跡(9世紀後半)	須恵器(坏、高台付坏、蓋、皿、甕)・土師器(甕、台付甕)・灰釉陶器(壺、皿)・土製品(土錘、土製支脚)・鉄製品(鍬、鎌、紡錘車)
4	四ツ木遺跡 (11-004)	新倉2丁目	[平安]住居跡2(9世紀後半～10世紀前半2)	須恵器(坏、蓋、壺、甕、壺)・土師器(甕、台付甕)・須恵器坏底部転用紡錘車・須恵器甕転用研磨具・鉄製品(刀子、鎌)
5	午王山遺跡 (11-005)	新倉3丁目	[奈良]住居跡2(8世紀前半2)、[平安]住居跡8(8世紀第4四半期～9世紀第1四半期1、9世紀中頃1、9世紀末～10世紀初頭3、不明3)	須恵器(坏、蓋、甕)・土師器(甕、台付甕)
13	吹上遺跡 (11-013)	白子3丁目	[奈良]住居跡6(8世紀第2～3四半期1・8世紀第3四半期4・8世紀3～4四半期1)、[平安]住居跡4(9世紀後半2・10世紀前半1・不明1)	須恵器(坏、蓋、壺、鉢、短頸壺、長頸瓶、甕)・土師器(坏、甕)・土製品(土製支脚)・鉄製品(刀子、釘、鎌)・青銅品(巡方)
17	市場峽・市場上遺跡 (11-017)	白子3丁目	[平安]住居跡15(9世紀後半13・10世紀前半2)	須恵器(坏、高台付坏、蓋、壺、高台坏皿、長頸瓶、甕)・土師器(甕、台付甕)・須恵器坏底部転用研磨具・土製品(紡錘車)・石製品(紡錘車)・鉄製品(刀子)
22	城山遺跡 (11-022)	白子3丁目	[平安]住居跡1(9世紀後半)	須恵器(坏、壺)・土師器(甕)・石製品(紡錘車)
23	榎堂遺跡 (11-023)	下新倉6丁目	[平安]溝状遺構1、[奈良～平安]掘立柱建物跡1	須恵器(坏、高台付坏)
35	峯遺跡 (11-035)	新倉2丁目	[平安]住居跡1(9世紀前半)	須恵器(坏、壺、甕)・土師器(甕、台付甕)・鉄製品
36	仏ノ木遺跡 (11-036)	下新倉3丁目	[奈良]墓1(8世紀中頃)、[平安]住居跡4(9世紀後半3・10世紀前半1)	須恵器(坏、長頸壺)・土師器(坏、盤状坏、甕)・骨片
43	漆台遺跡 (11-043)	新倉2丁目	[平安]住居跡2(9世紀第2～3四半期1・9世紀末～10世紀初頭1)	須恵器(坏、蓋、壺、円面硯)・土師器(甕)
12	下里遺跡 (11-012)	下新倉4丁目	[奈良]住居跡1(8世紀前半)	須恵器(坏)・土師器(甕)・鉄製品(鎌)

第1表 和光市奈良・平安時代遺跡一覧表 (照林2006より抜粋一部改編)

跡第1号住居跡（第26図）、花ノ木遺跡第2次第3号住居跡（第24図）などあり、事業団調査区の第7号住居跡では、焼失住居ということもあり、須恵器の坏・甕のほか火熨斗、落とし鍵など特殊な遺物が出土しています。これらは、埼玉県指定文化財であり、脆弱なため今回の展示では写真資料の展示のみとなります。

9世紀末期では、花ノ木遺跡第2次第2号住居跡（第23図）、市場峡・市場上遺跡第8次第6号住居跡（第29図）、市場峡・市場上遺跡第7次第3号住居跡（第28図）などである。市場峡・市場上遺跡第7次第3号住居跡は、須恵器坏の底面に「吉井」と書かれた墨書土器が出土しています。

10世紀に入る住居跡は、峰前遺跡第5号住居跡（第27図）があり、同住居跡からは、墨書で「加」の下に「万」が合わさった吉祥文字が書かれている須恵器坏のほか、判別できない墨書土器も出土しています。

そのほかの特殊な遺物としては、吹上遺跡第3次調査区出土の腰帯の飾り金具の巡方（第30図）のほか、峰前遺跡では、底面に墨書で「守」の文字が書かれている灰釉陶器皿（第30図）が検出されています。「守」とは、いわゆる「長官」の意味があります。前出の漆台遺跡の円面硯や花ノ木遺跡事業団調査区第7号住居跡出土の火熨斗、落とし鍵などは、新羅郡の官衙関係の貴重で重要な資料となります。

新羅郡の時代に関係する遺構は、竪穴式住居跡がほとんどで、掘立柱建物跡の検出例は、今のところ榎堂遺跡、花ノ木遺跡の2遺跡で検出されているのみです。

花ノ木遺跡では、遺構配置図（第14図）から見ると、事業団調査区、和光市調査区を含め8世紀代の住居跡は3軒、9世紀代の住居跡は15軒検出されています。そのほか、掘立柱建物跡は4棟確認されており、2間×3間の側柱建物跡が事業団調査区で1棟、第12次調査区では重複して2棟、第2次調査区では、柱跡が2本のみのため規模・主軸不明の1棟が検出されています。規模がわかる3棟の主軸は揃っていないため、規則性は見られません。

3 終わりに

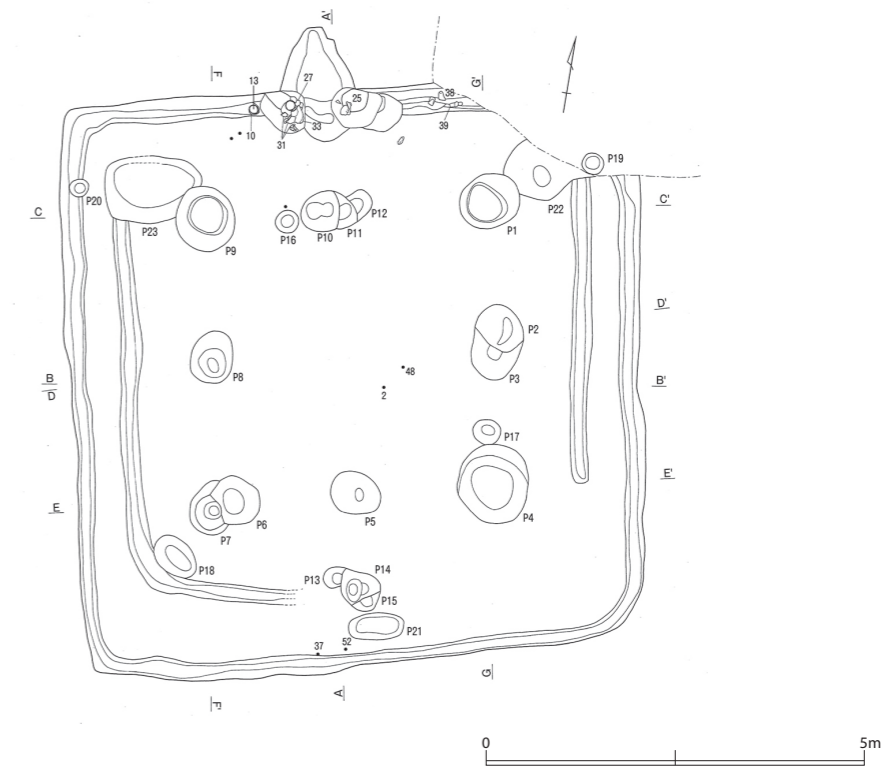
和光市域の7世紀末から8世紀前半では、吹上遺跡第3次調査地点（第5図）周辺で集落が見られるようになります。その後の8世に半ば以降からは、集落遺跡内の出土遺物の時期と火熨斗などの特殊遺物の出土例などの状況証拠から、花ノ木遺跡を中心とする新倉2丁目地域の舌状台地上にある峰遺跡、峰前遺跡、漆台遺跡を含む約200×900mの範囲（第13図）が、官衙関係遺跡とも考えたこともあるが、この遺跡群の地形は、馬の背状で平坦部が少なく平面的に正倉、政庁などが計画的配置ができない地形であり、現に発掘調査でも長大な掘立柱建物跡は検出されていないことから、官衙関係の中心地には比定しえない場所である。

ただし、幡羅官衙遺跡群において、中心となる実務官衙域や正倉院域の範囲外の南に存在する下郷地区では、竪穴住居跡が多数検出され、官衙遺跡の周辺集落を成しています。新羅郡の正倉院や実務官衙域ははまだ確認されていませんが、花ノ木遺跡一帯は、幡羅官衙遺跡群の下郷地区と同様の遺跡群かもしれません。

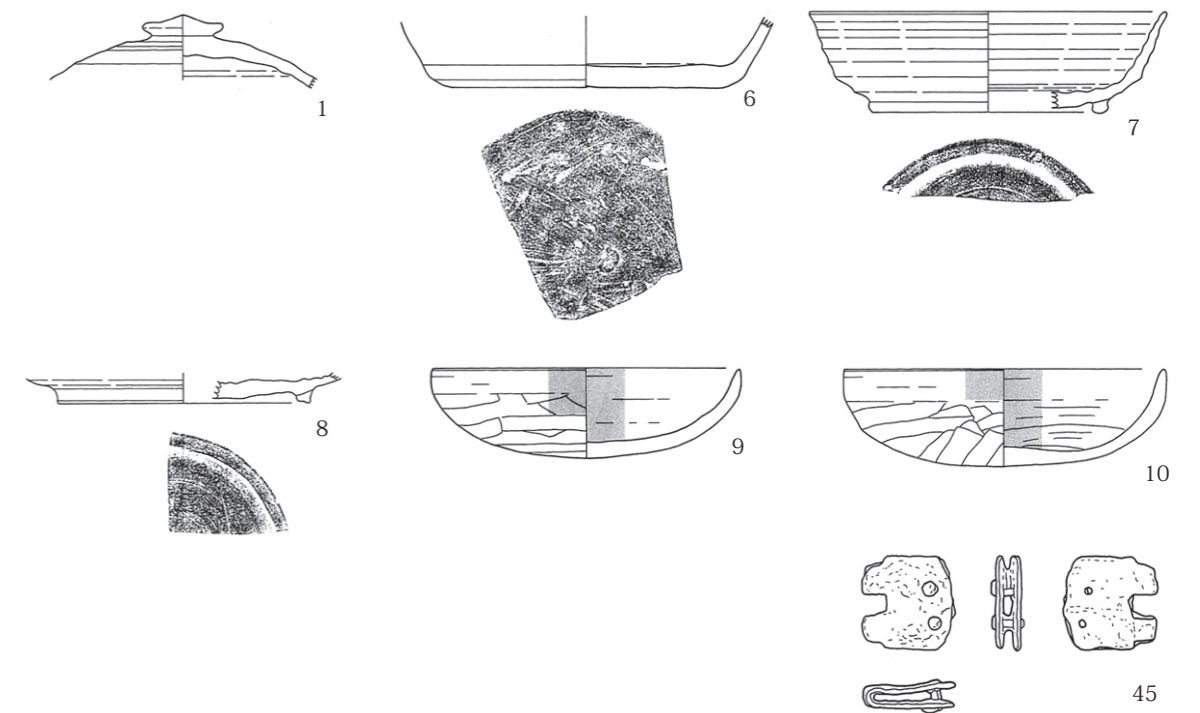
註

（註1）『続日本紀』（延暦16（797）年発行）巻第二十一、「天平宝字二（758）年八月二十四日

下里遺跡



第3図 第1号住居跡平面図



第4図 第1号住居跡出土遺物

帰化の新羅僧三十二人、尼二人、男十九人、女二十一人武蔵国の閑地に移す、これに於いて初めて新羅郡を置く」と記載されている。また、同じく「天平宝字四（760）年四月二十八日帰化の新羅人百三十一人を武蔵国に置く」と記載されている。

（註2）『続日本紀』に新羅郡の地名が見えてから、呼称が変化し、『延喜式』（927）では「新座」と記され、『和名類聚抄』（931～937）では「新座郡」は爾（に）比（ひ）久（く）良（ら）郡（ぐん）と読むと記載されている。現在でも新倉の地名が残る、和光市周辺が新羅郡の中心であったことが類推される。

（引用・参考文献）

宮瀧交二 2015年「天平寶字2（758）年の新羅郡建郡をめぐる文献史学における研究状況と考古学的検討への期待」『あらかわ』第16号あらかわ考古談話会

鈴木一郎 2015年「和光・朝霞市域の奈良・平安時代の集落遺跡について—主に8世紀から9世紀を中心として—」『あらかわ』第16号 あらかわ考古談話会

照林敏郎 2006「旧新座郡内における奈良・平安時代遺跡の様相」『考古学の諸相Ⅱ』坂詰秀一先生古希記念会

根本 靖 2003「東の上遺跡の基礎研究 V—土器編年の予察—」『あらかわ』第6号 あらかわ考古談話会

鈴木一郎ほか 2003『吹上遺跡（第3次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第30集 和光市遺跡調査会

照林敏郎ほか 2004『第15回企画展古のにひくら』朝霞市博物館

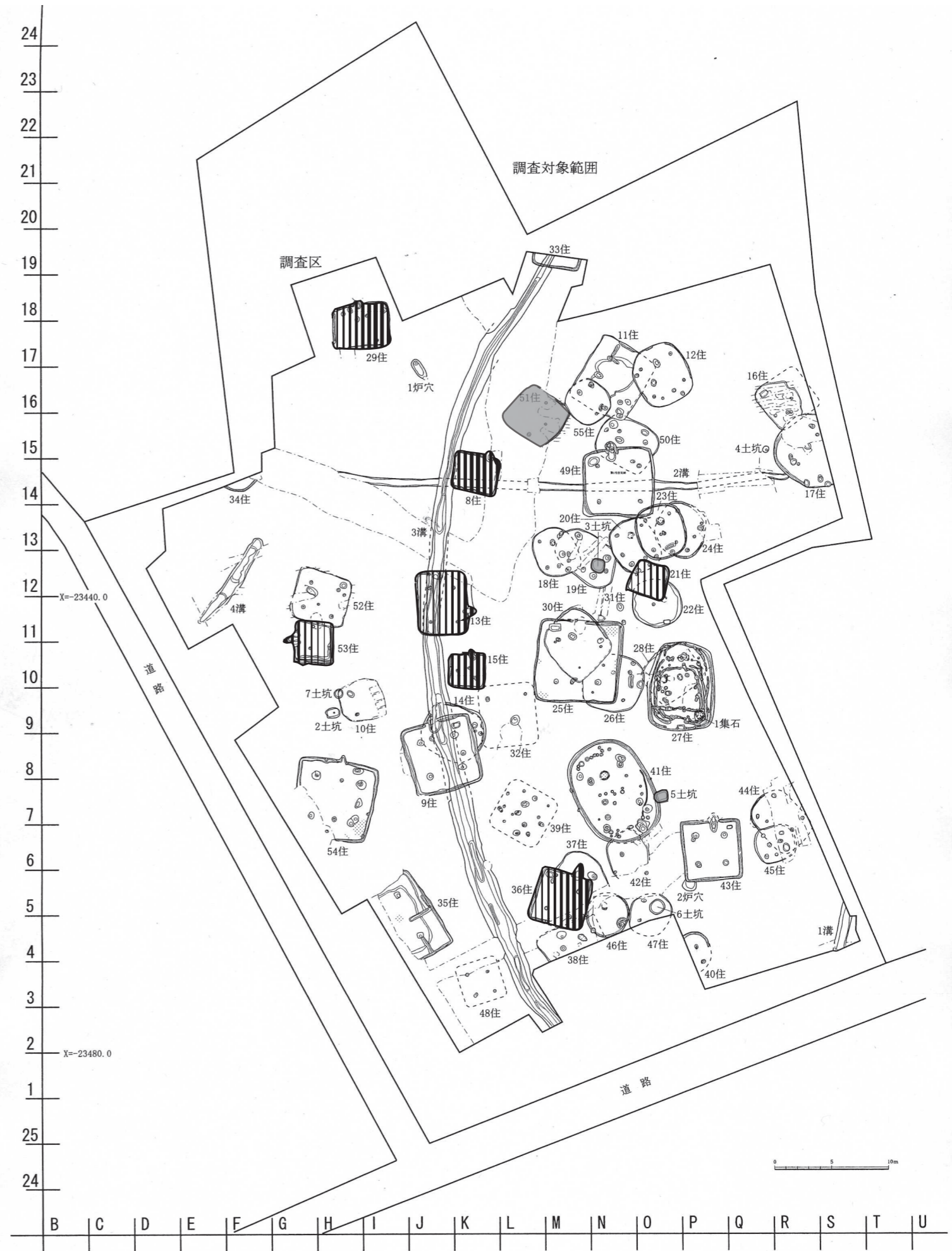
照林敏郎 2004「朝霞市における奈良・平安時代の集落について」『あらかわ』第7号 あらかわ考古談話会

照林敏郎 2004「朝霞市の奈良・平安時代遺跡について」『朝霞市博物館研究紀要』第7号 朝霞市博物館

前田秀則ほか 2010『下里遺跡（第1次）・市場峽・市場上遺跡（第9次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第41集 和光市遺跡調査会

西井幸雄ほか 1994『花ノ木・向原・柿の木坂・水久保・丸山台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第134集

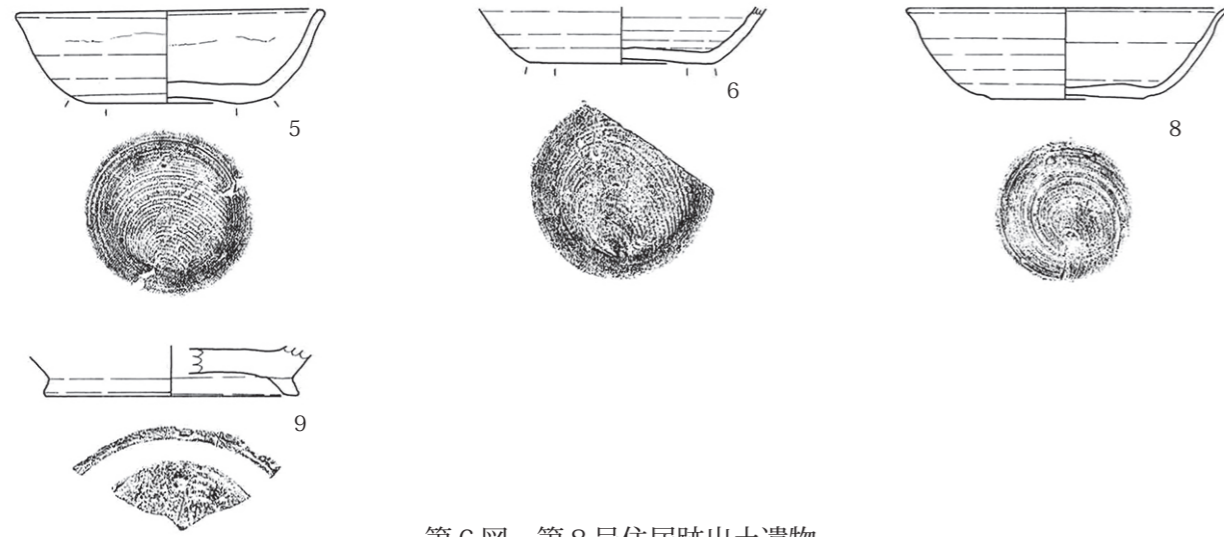
鈴木一郎ほか 1998「漆台遺跡」『市内遺跡発掘調査報告書1』和光市埋蔵文化財調査報告書第20集 和光市遺教育委員会



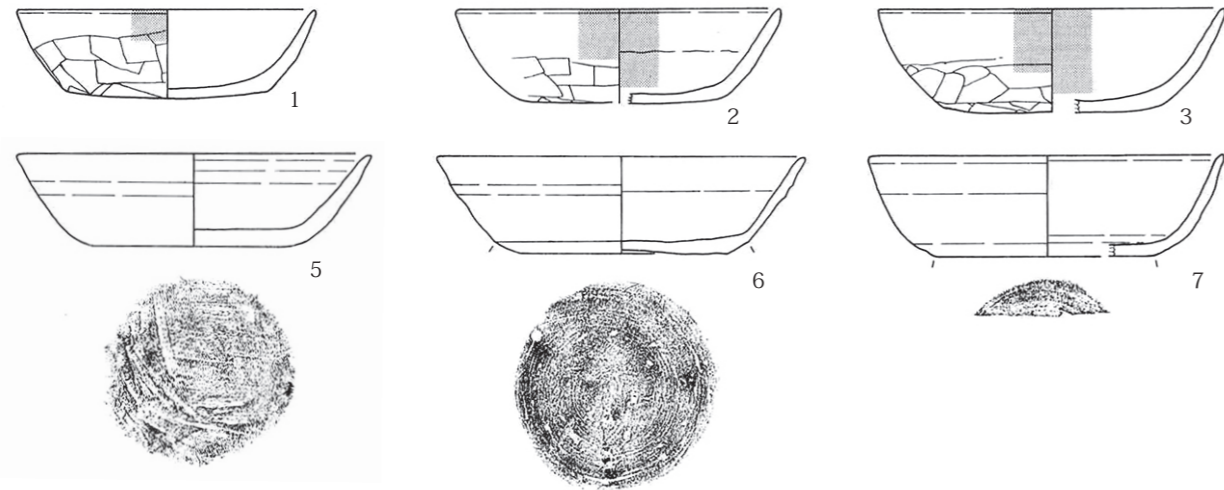
第5図

Y=17840.0

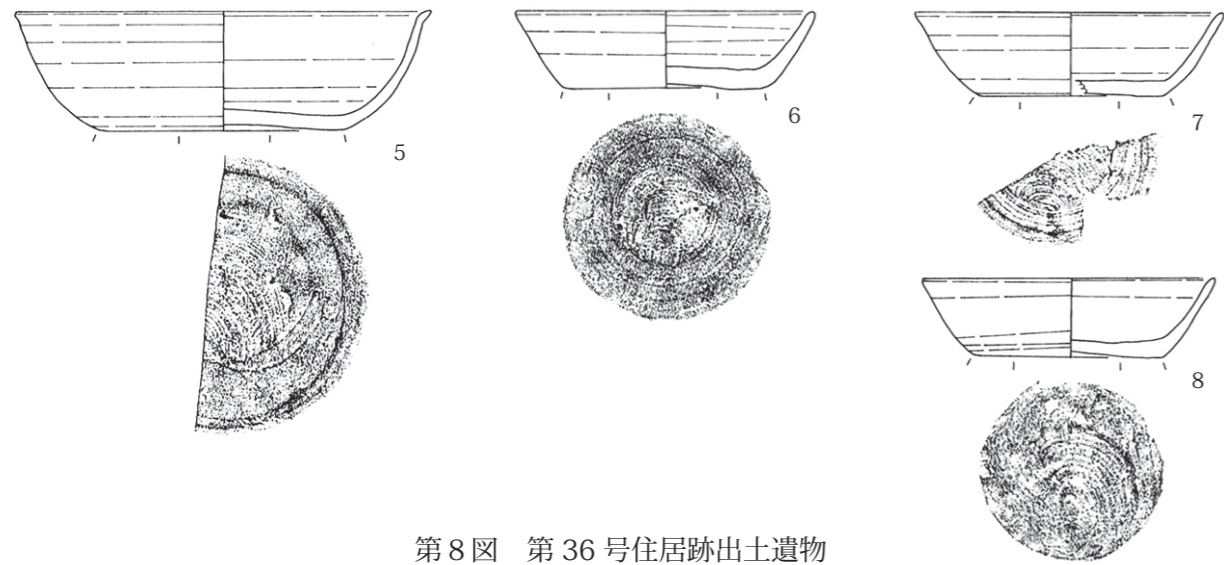
吹上遺跡



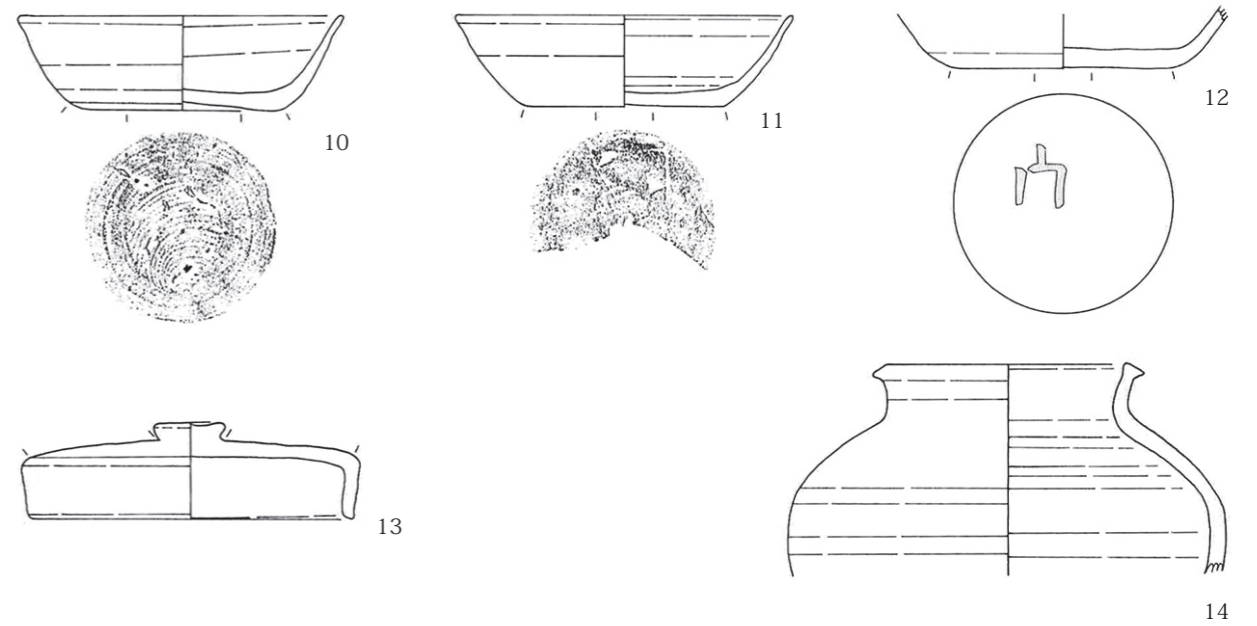
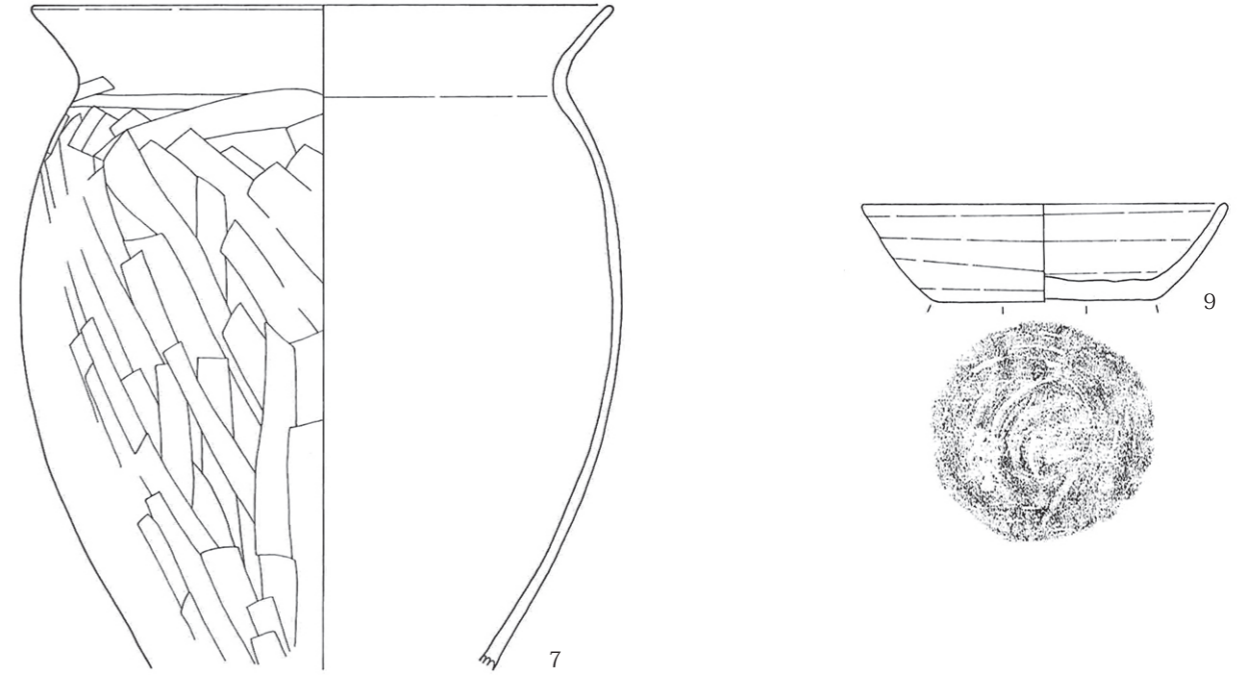
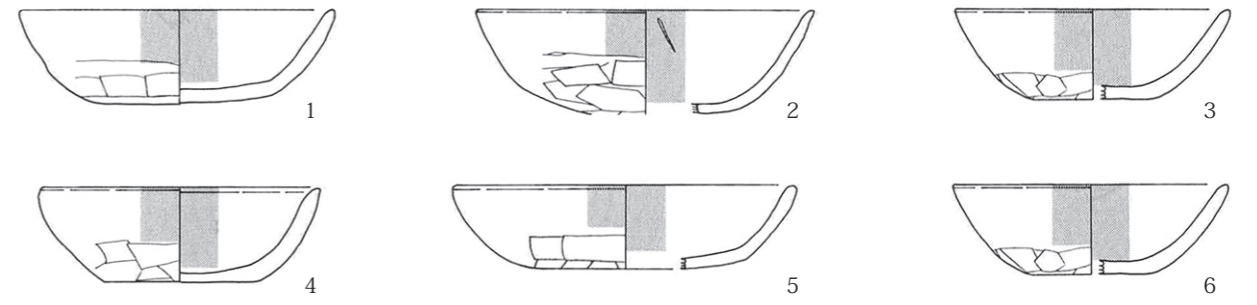
第6図 第8号住居跡出土遺物



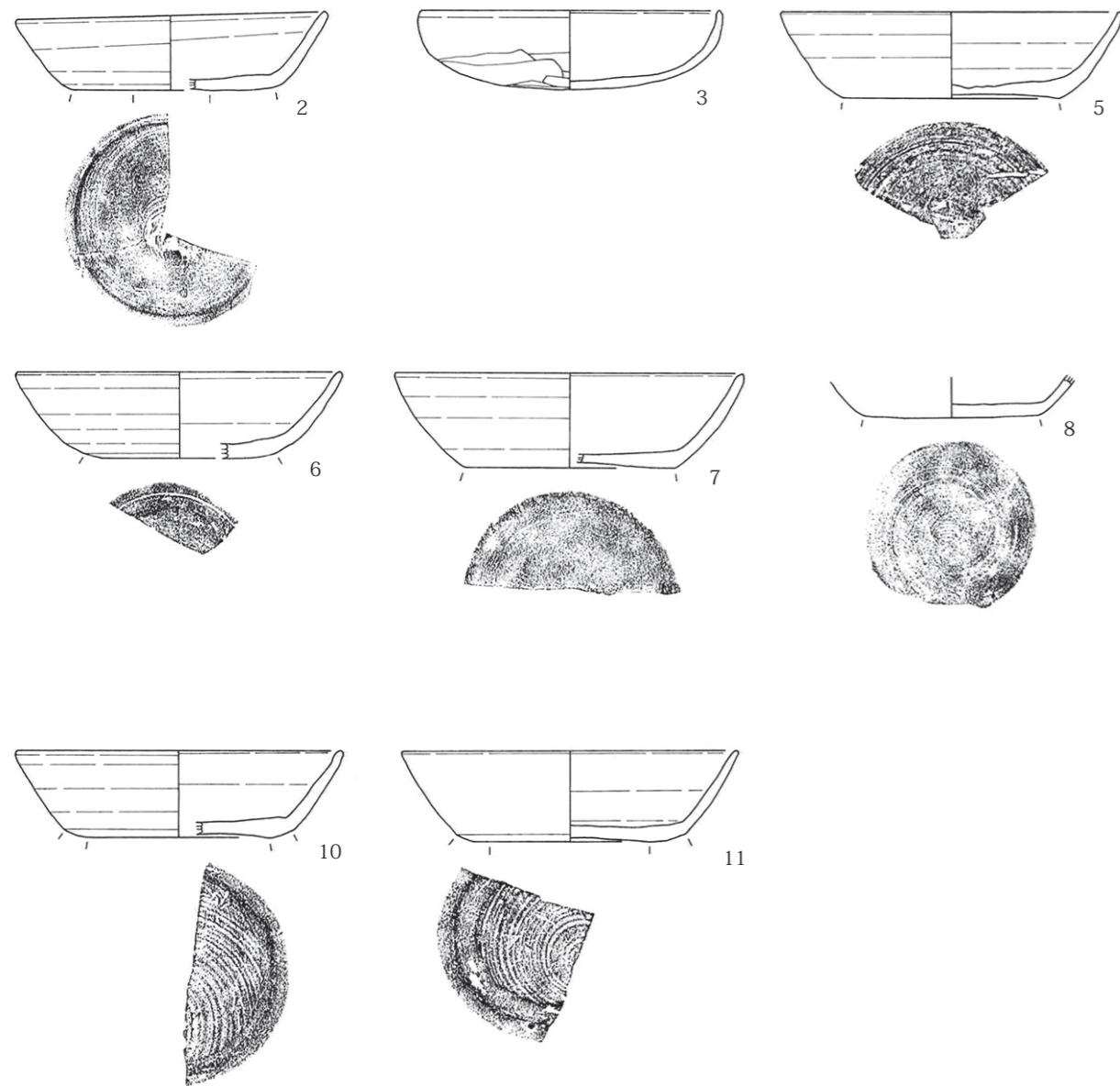
第7図 第13号住居跡出土遺物



第8図 第36号住居跡出土遺物

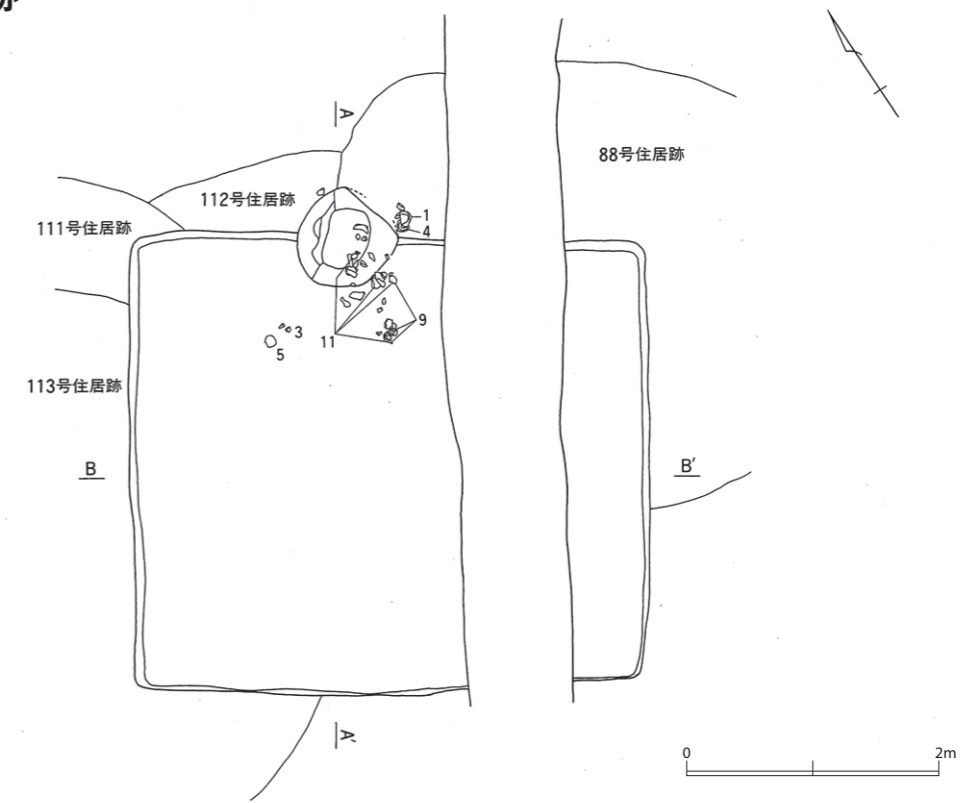


第9図 第29号住居跡出土遺物

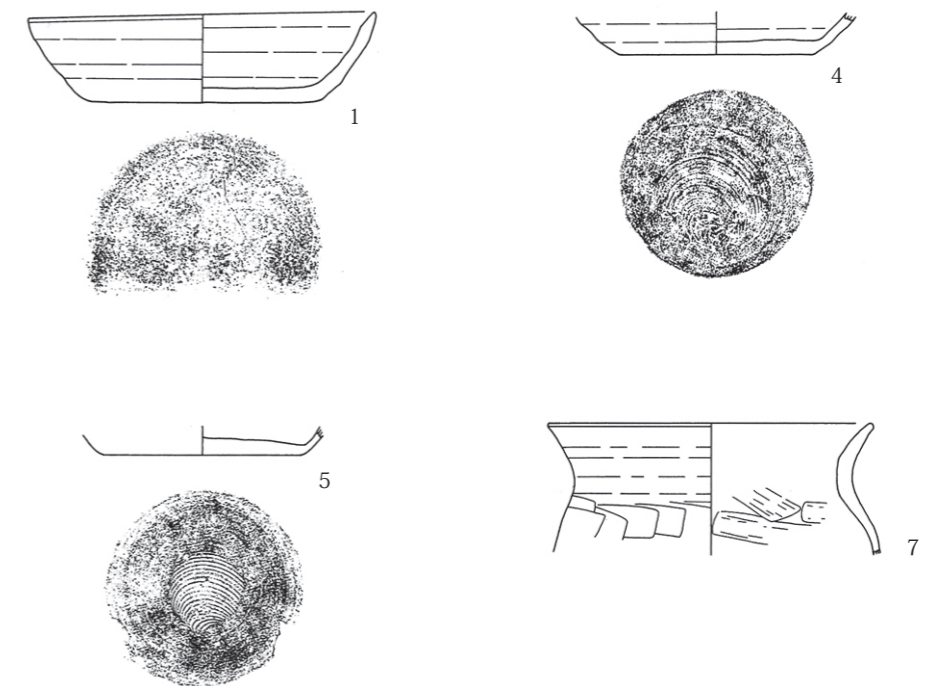


第 10 图 第 53 号住居跡出土遺物

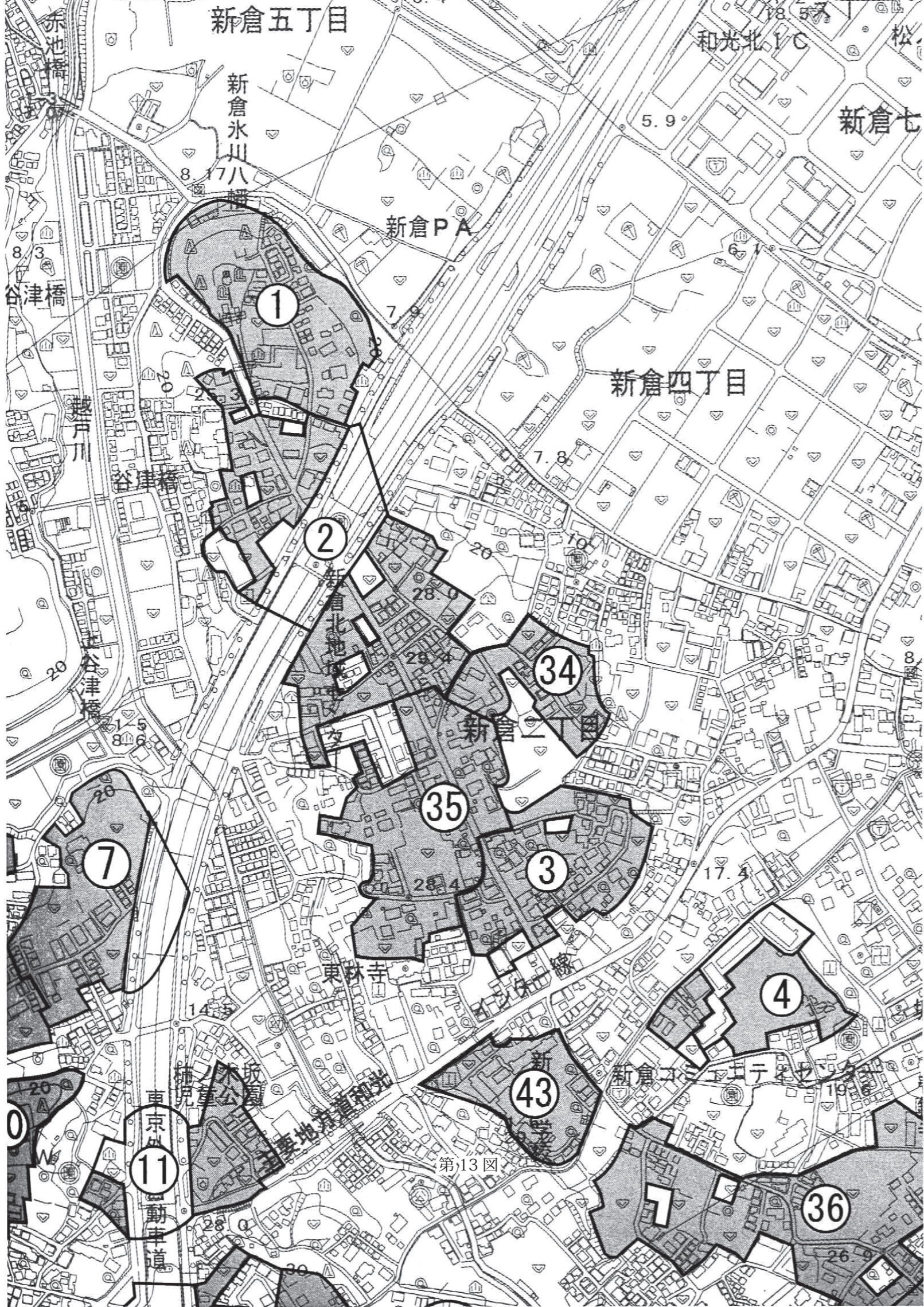
午王山遺跡



第 11 图 H10 号住居跡平面图



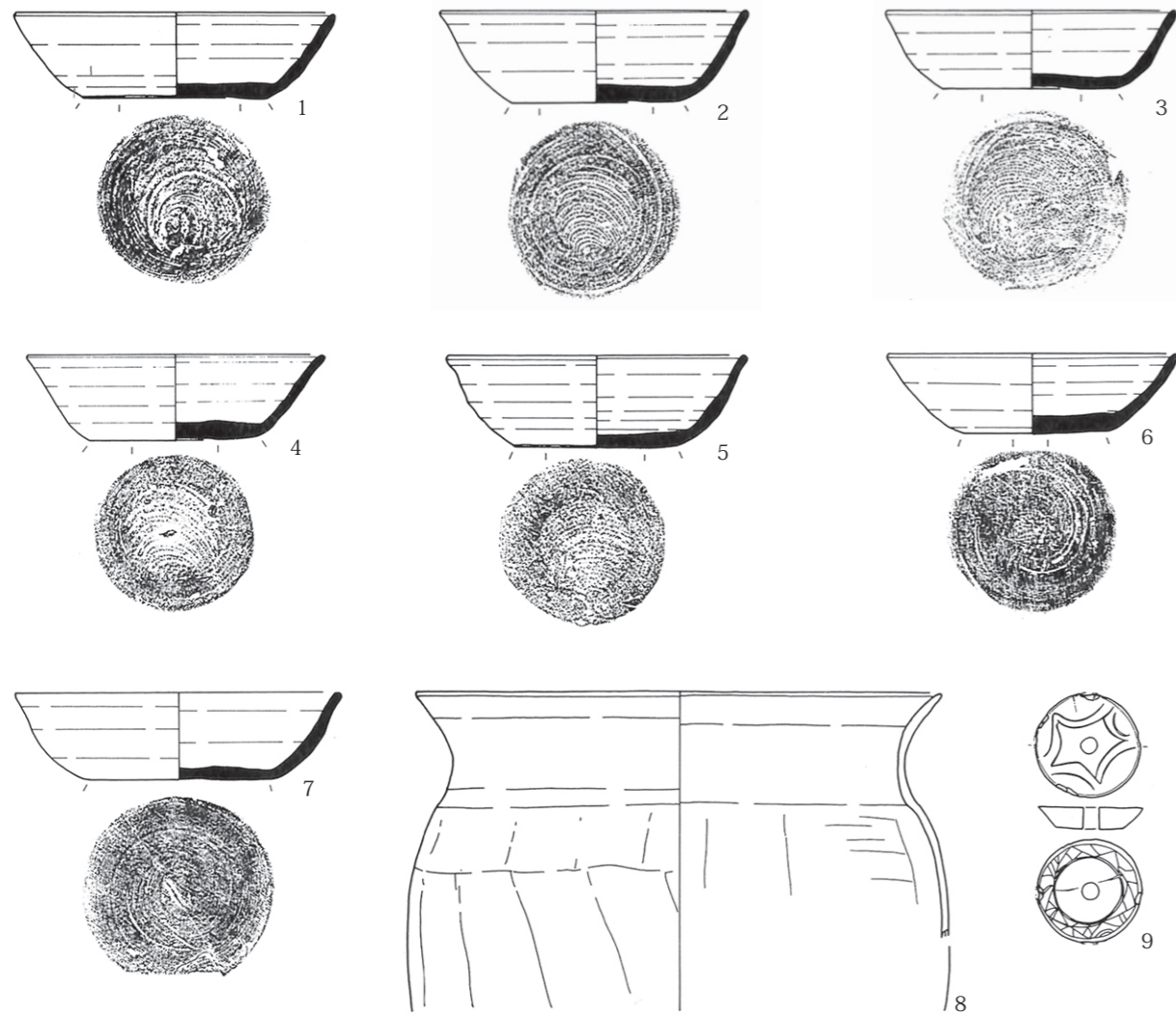
第 12 图 H10 号住居跡出土遺物



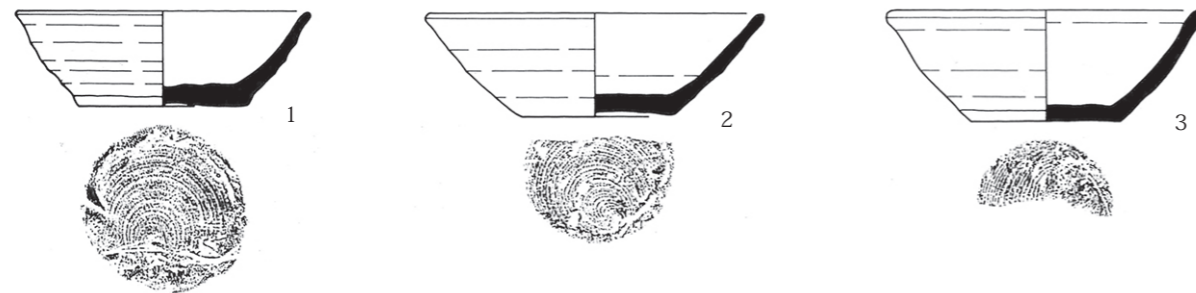
第13図



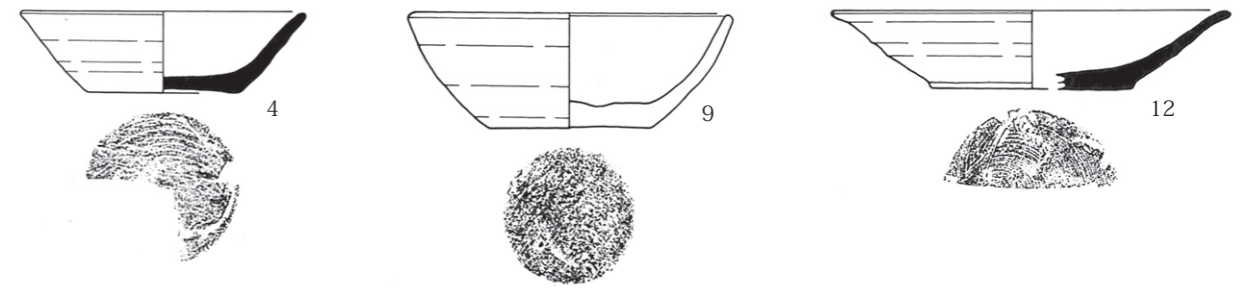
第14図 花ノ木遺跡遺構位置図



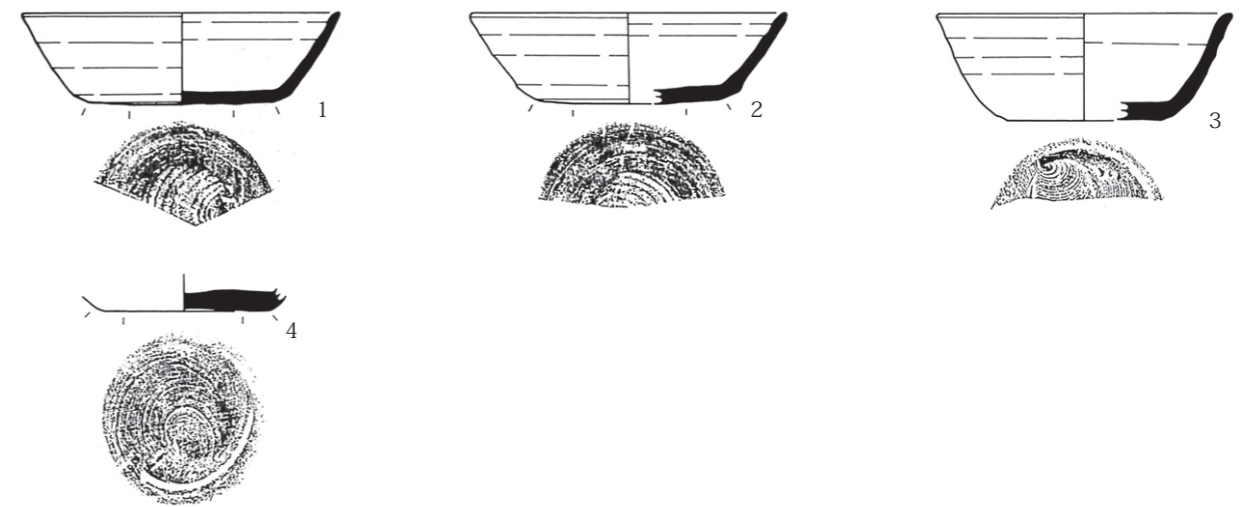
第15図 第6号住居跡出土遺物



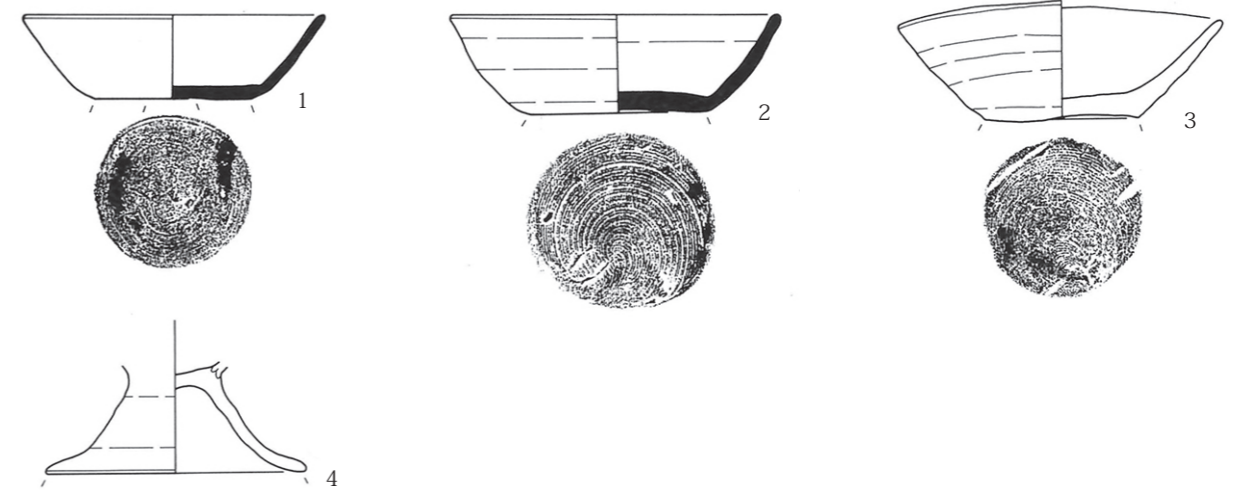
第16図 第8号住居跡出土遺物(1)



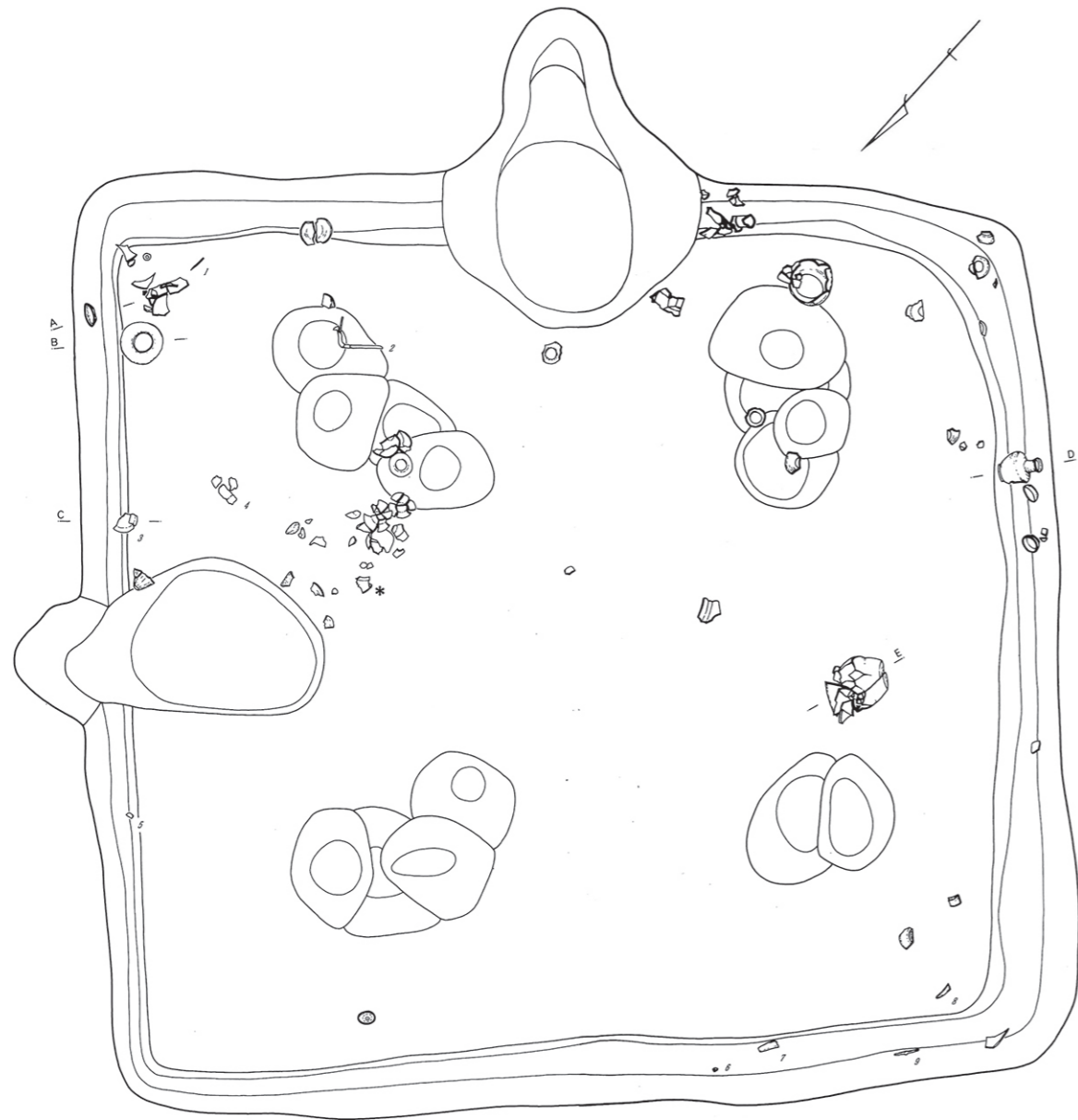
第17図 第8号住居跡出土遺物(2)



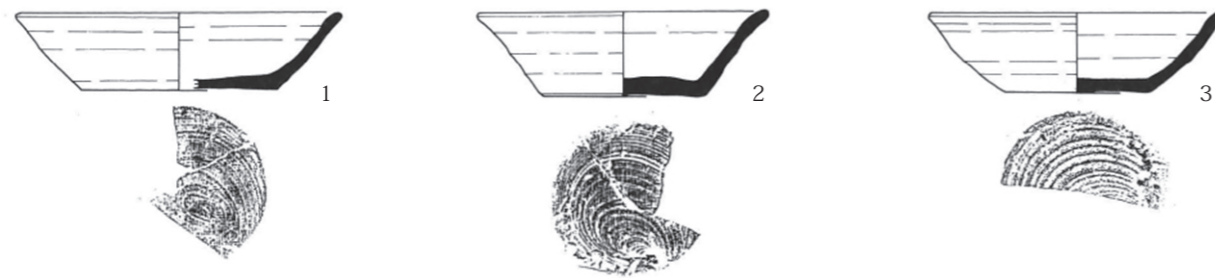
第18図 第9号住居跡出土遺物



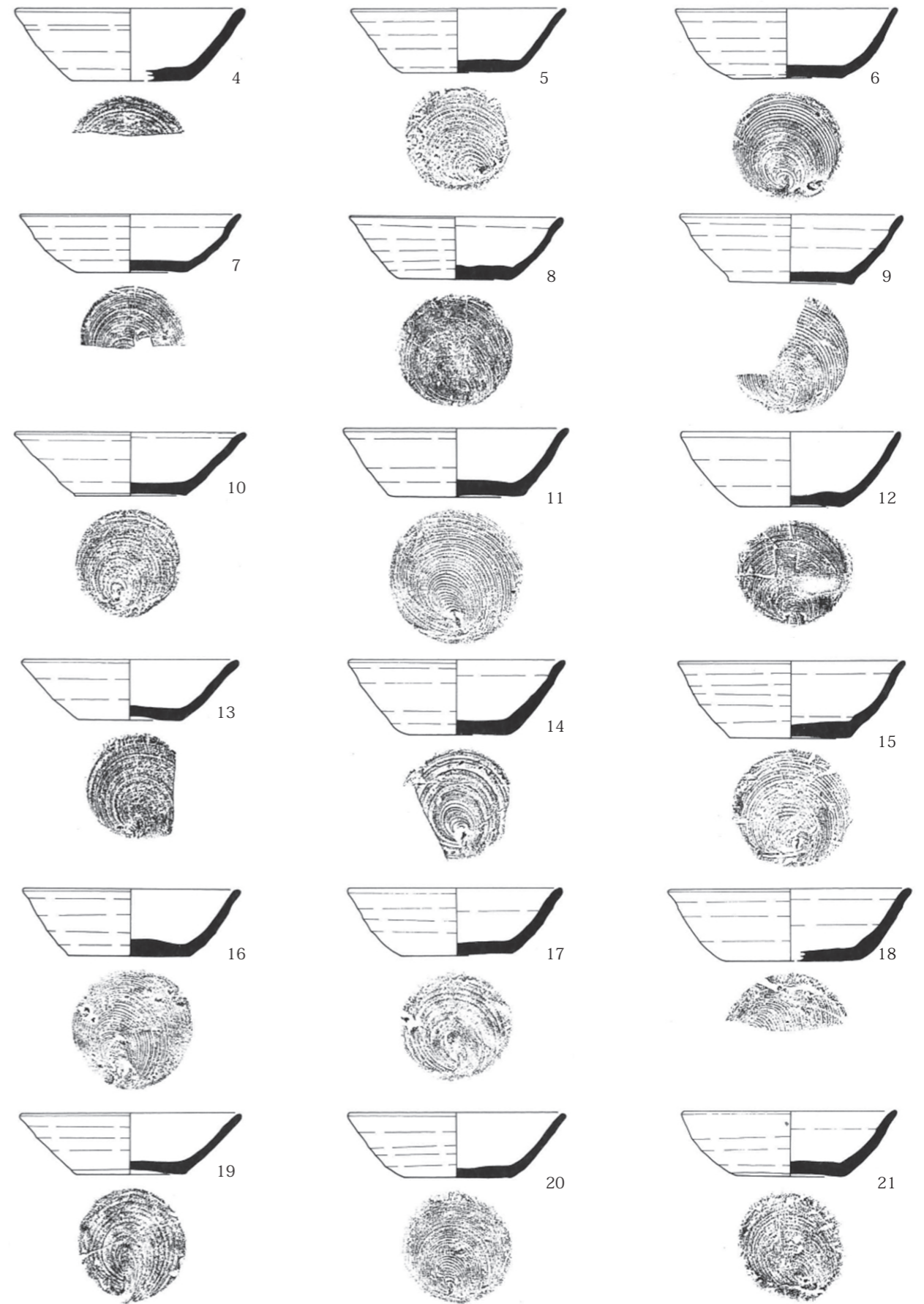
第19図 第10号住居跡出土遺物



第20図 第7号住居跡平面図

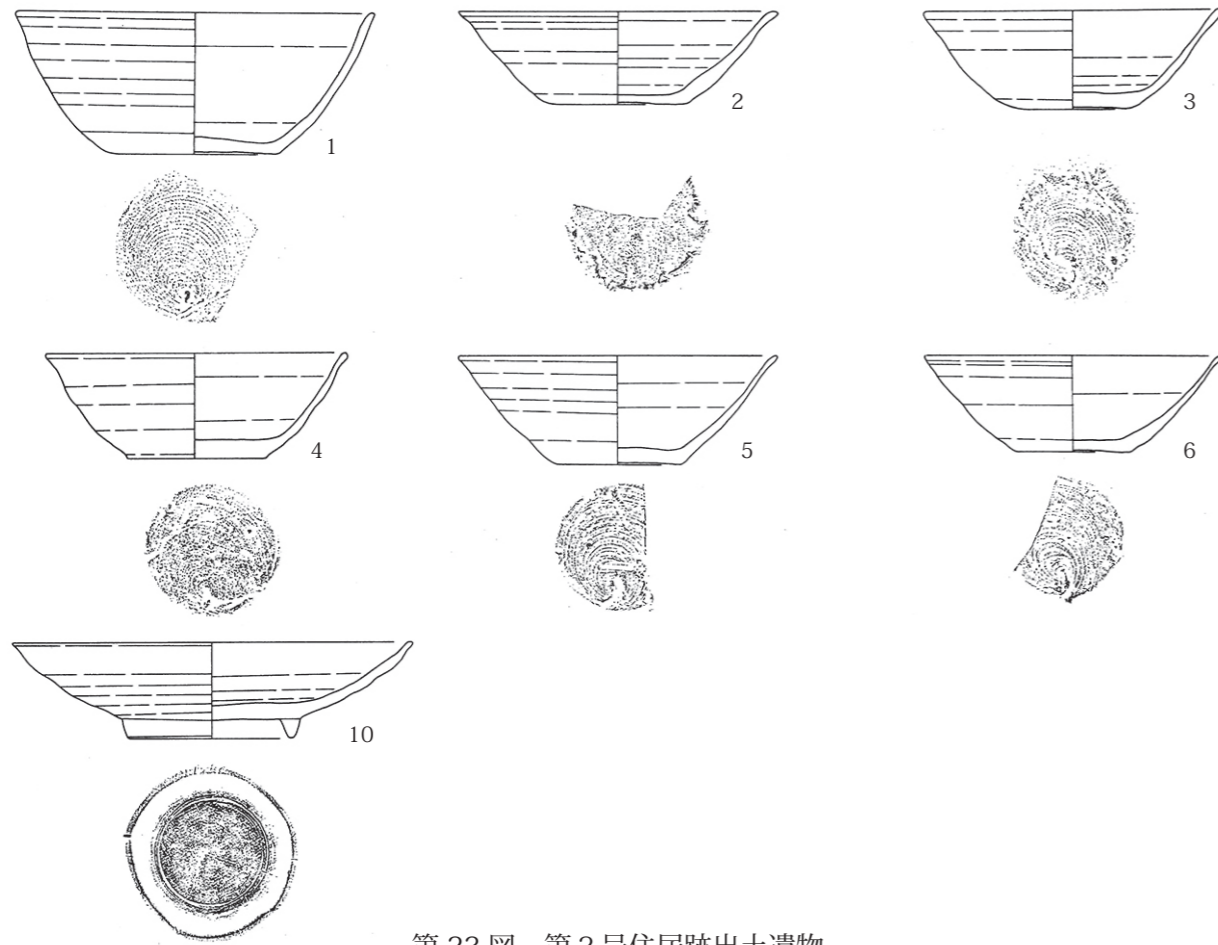


第21図 第7号住居跡出土遺物(1)

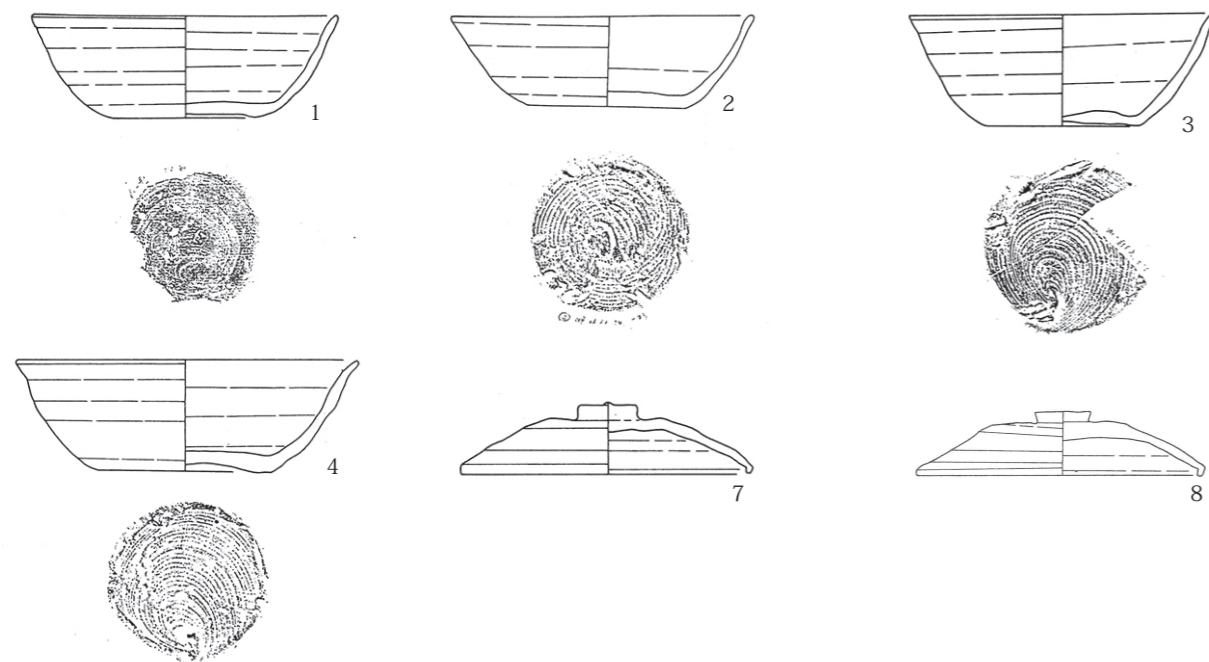


第22図 第7号住居跡出土遺物(2)

花ノ木遺跡

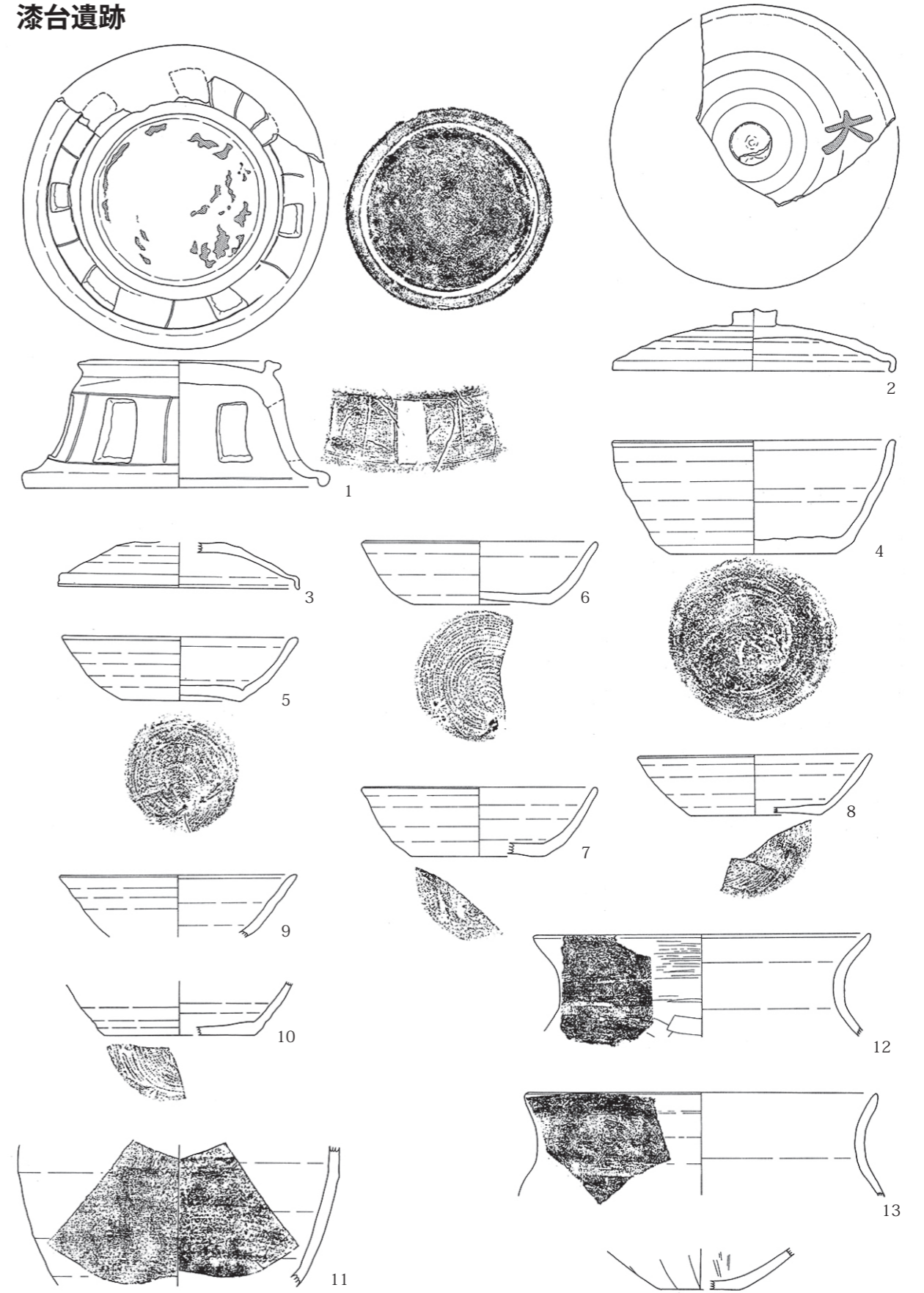


第 23 图 第 2 号住居跡出土遺物



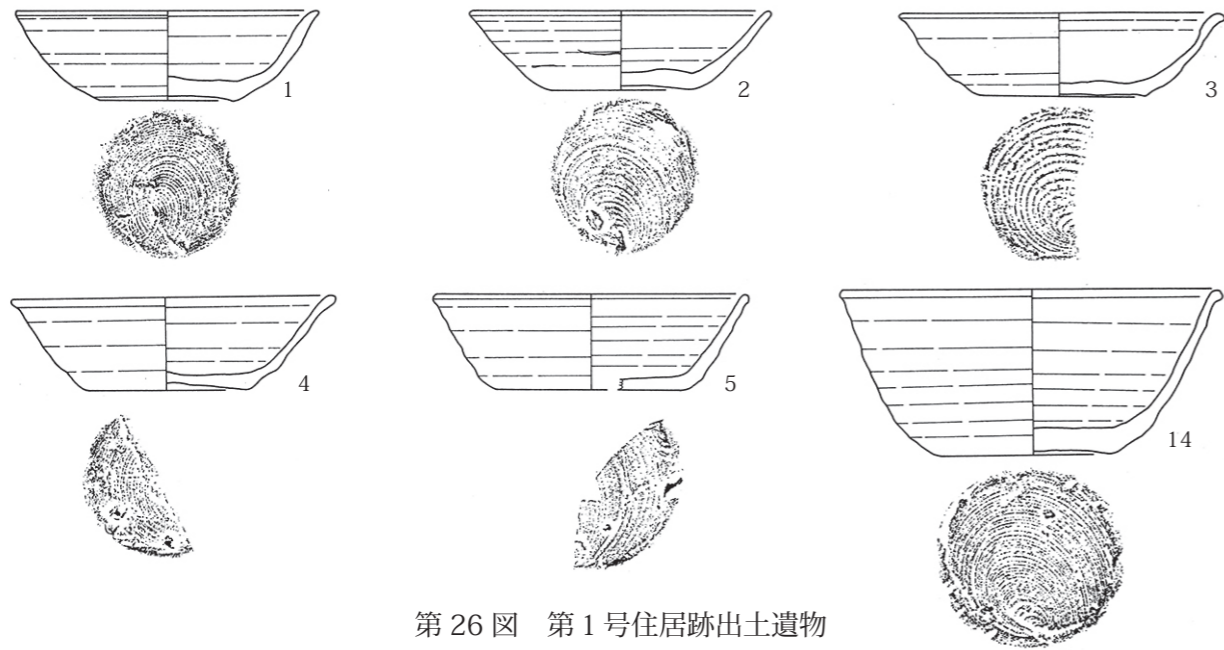
第 24 图 第 3 号住居跡出土遺物

漆台遺跡



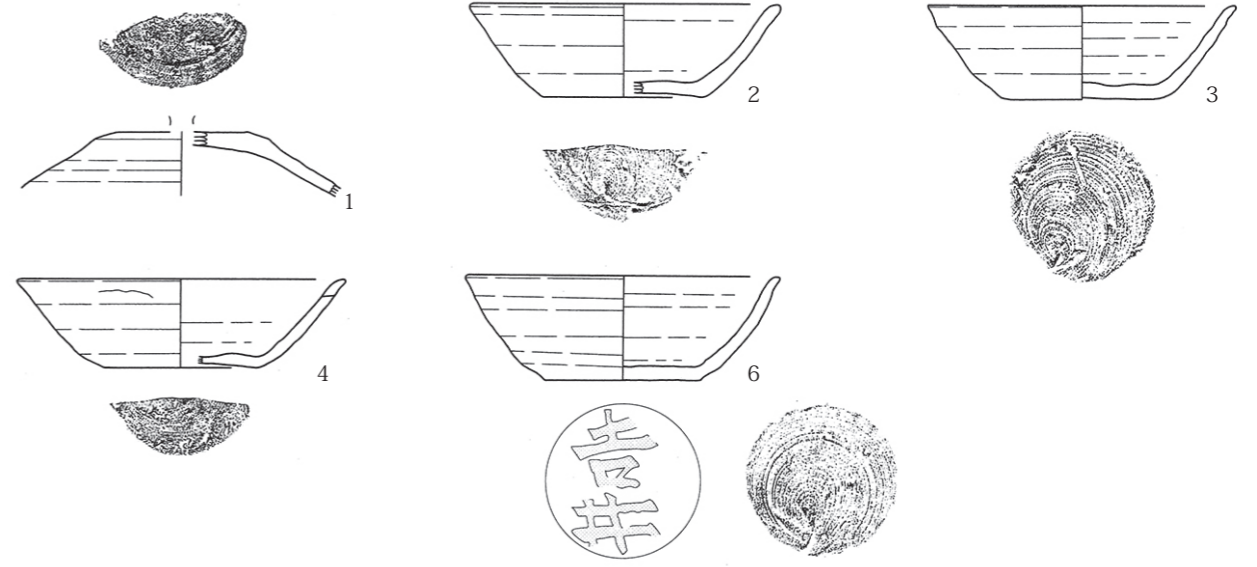
第 25 图 第 1 号住居跡出土遺物

峯遺跡



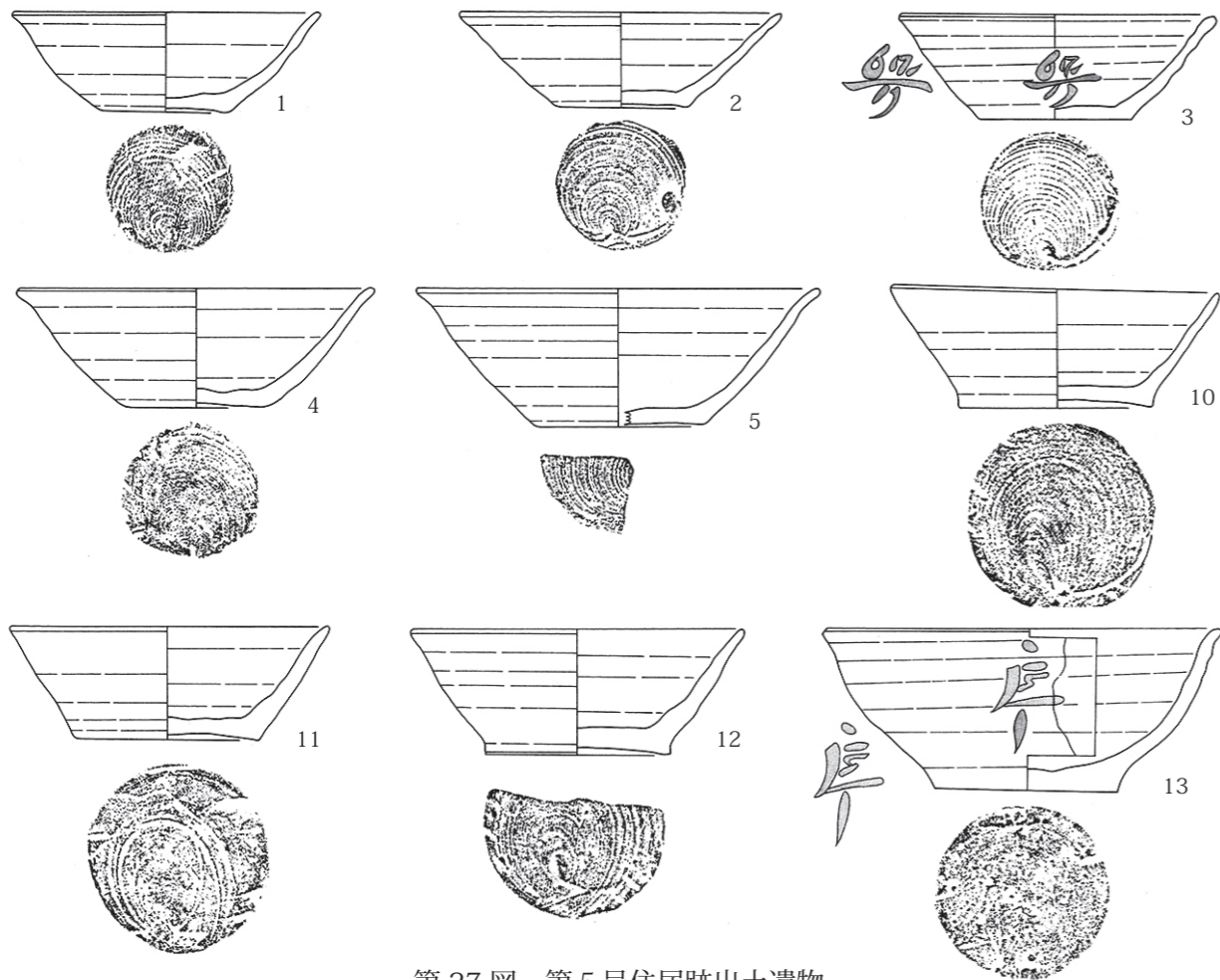
第26図 第1号住居跡出土遺物

市場峡・市場上遺跡

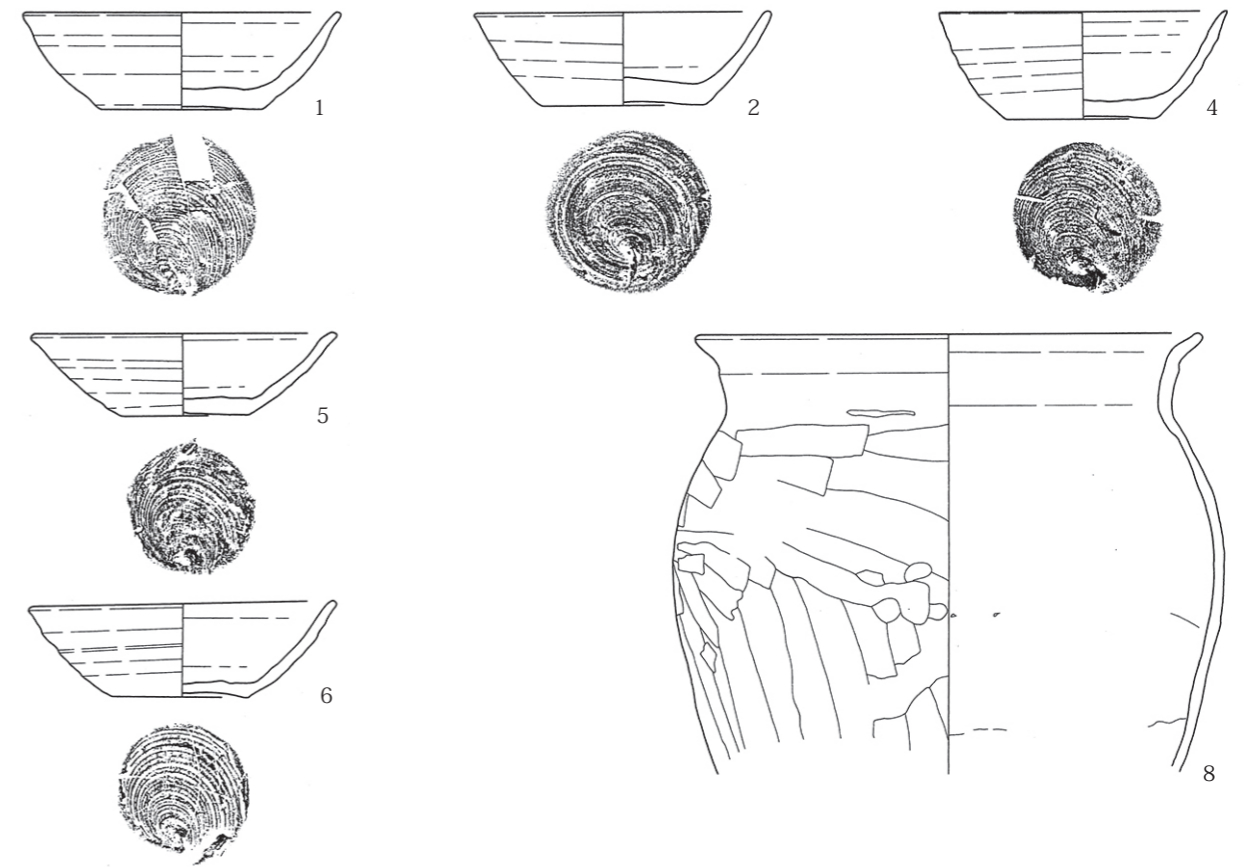


第28図 第3号住居跡出土遺物

峯前遺跡

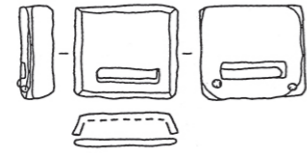


第27図 第5号住居跡出土遺物

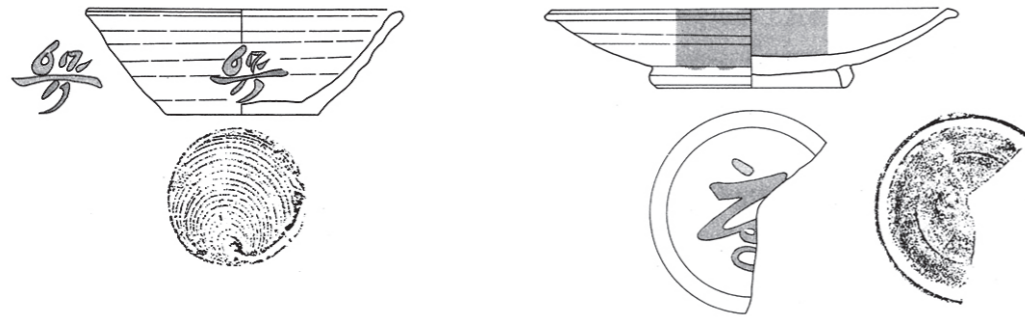


第29図 第6号住居跡出土遺物

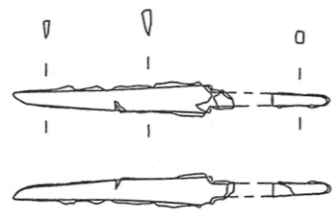
関連遺物



吹上遺跡



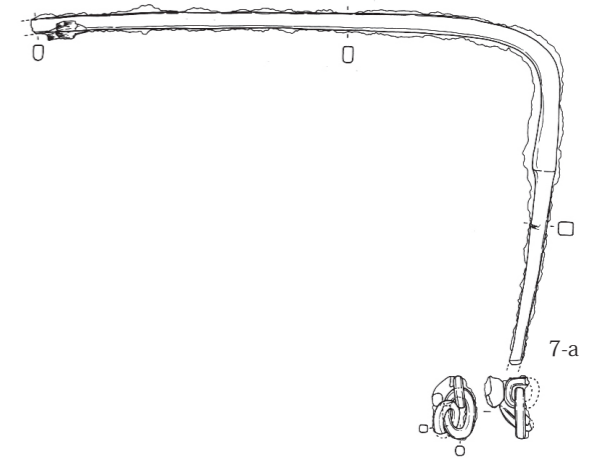
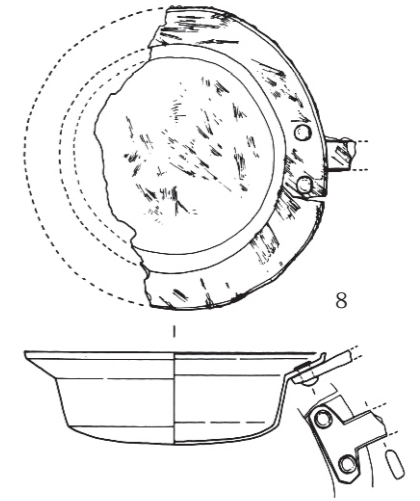
峯前遺跡



市場峡・市場上遺跡

第 30 図 関連遺物

関連遺物



埼玉県埋蔵文化財調査事業団 花ノ木遺跡

第 31 図 関連遺物